

〔1番 櫻井久美子さん登壇〕

○1番（櫻井久美子さん） おはようございます。
櫻井です。よろしくお願いいたします。

児童クラブの指導員不足ということで、今年の4月から姉とともに指導員として勤めさせていただいております。子供たちの話をゆっくり聞いたり、一緒に話をたくさんしたいのですが、室内では子供同士がぶつかって泣いたり、けんかをして外へ出てしまう子、夜寝るのが遅いのか、目をこすってうとうと眠ってしまう子、何が起こるかかわからない、はらはらどきどきが盛りだくさんの毎日で、話を中断してしまうことも多々あります。家に帰ってから子供たちにごめんなさいと心の中で詫げる毎日です。もう少し余裕があればと思います。

児童クラブ勤務以外は訪問介護員をしています。ひとり暮らしや日中一人の方が多く、お一人でいらしたときに地震や火事が起きたらと考えると不安です。また、ふだんのときも気にかけて寄ってくださる方がいれば安心できるだろうと思います。これから子供たち、高齢者の方々を取り巻く環境をよくしていかなければならないと強く感じる毎日です。

それでは、通告に従いまして質問いたします。

テーマは、児童クラブの現状とこれからのについてです。

私が勤務する金谷小学校区放課後児童クラブでは、50人以上の児童に対して常時5人の指導員で対応していますが、一人一人の子供と十分に向き合えているか、子供の心の声を聞き逃していないかなど心配になります。また、指導員だけでなく多くの人が子供たちと関わりを持てたらいいのと思います。

私としては、児童クラブに預けないで親の手で子供を育てる環境をつくるのが一番と思っていますが、今後、市はどのように考えているかお聞きしたいです。

そこで、質問させていただきます。

質問(1)放課後児童クラブの指導員の人数は十分でしょうか。

質問(2)子供たちが過ごしているクラブ室の広さは十分でしょうか。

質問(3)地域の方々が気軽に放課後児童クラブで子供たちと関わりが持てるようにしていただくことはできませんか。

質問(4)児童クラブをつくるのではなく、親の手で子育てができる環境や支援をすることが一番だと思いますが、今後、市では子育て支援についてどのような計画を考えていますか。

2つ目のテーマは、訪問介護を通して感じたことです。

高齢者の方々と接する仕事をしていますが、本当に幸せだと感じ、安心して毎日を過ごしていらっしゃるのか、何が一番の望みなのか、自分が本当に支えになってあげられているのか自信がありません。御近所との関わりも薄くなって孤立している方もいらっしゃるの、このままの状況では心配です。

そこで質問です。

質問(1)御近所同士の声かけや見守りなど、地域のネットワークが希薄になっており、高齢者が孤独な生活を送っているように感じます。地域での取り組みの現状について教えていただきたいです。

質問(2)町内、隣組など地域での声かけ、見守りなどが盛んに行われる地域になるための取り組みをしていただけないでしょうか。

壇上での質問は以上です。よろしくお願いいたします。

〔1番 櫻井久美子さん発言席へ移動〕

○議長（仲田裕子議員） 染谷市長。

〔市長 染谷絹代登壇〕

○市長（染谷絹代） おはようございます。よろしくお願いを申し上げます。

では、櫻井さんの1の(1)の御質問についてお答えをいたします。放課後児童クラブ指導員の配置数は、静岡県における放課後児童クラブ整備運営に係るガイドラインに基づき、利用児童数に応じて定められております。例えば児童数19人までが指導員2人以上、35人まで3人以上、70人まで4人以上とされており、市内のクラブはガイドライン上、全て適正な配置がされております。ただし余裕のある指導員配置ではありませんので、引き続き職員募集をしております。お知り合いの方、御近所の方など放課後児童クラブに勤務できる方がいらっしゃいましたら、ぜひお声をかけていただければ幸いです。

次に、1の(2)の御質問についてお答えをいたします。放課後児童クラブの部屋の広さは国の放課後児童クラブ運営指針において定められており、子供1人につき概ね1.65平方メートル以上を確保することとされています。市内のクラブでは概ね基準面積を確保していますが、最近の急激な申込数の増加により定員を超えるクラブも発生してきております。このため島田第四小学校では教室の一部を、そして五和小学校では隣接する金谷地域交流センターの一部を放課後児童クラブ室として急遽借用いたしました。また、他の学校においても同様に整備を進めております。

次に、1の(3)の御質問についてお答えをいたします。一部の放課後児童クラブでは、近隣住民の方や団体など地域の皆様と交流を行っております。例えば将棋やグラウンドゴルフなどを教えていただいたり、一緒にビーズ遊びをしたりしております。また、流しそうめんづくりや餅つきなどの行事をお手伝いしていただいているクラブもございます。引き続き地域の皆様と交流ができるクラブ運営を行い、全てのクラブで交流ができるように進めてまいります。

次に、1の(4)の御質問についてお答えをいたします。平成27年3月に策定したしまだ子ども未

来応援プランでは、基本理念として子供を真ん中に子育てを考えることや、家庭や地域、学校、幼稚園、保育所、認定こども園、企業などみんなで考えることなどを掲げており、市といたしましては市民一人一人が子育てを支援する、子供にも親にも優しい子育て応援都市を目指しております。しかしながら、共働きやひとり親家庭など支援を必要とする家庭も増えていますことから、今後も引き続き放課後児童クラブなどの居場所づくりが必要であると考えております。

次に、2の(1)の御質問についてお答えをいたします。ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯の増加に伴い、これからは住みなれた地域において住民同士の声かけや見守りなど、いわゆる互助の取り組みが大切となってきます。平成27年の市民福祉意識調査では、助け合い、支え合いの地域づくりに向けて隣近所の住民同士のふだんからのつき合いに地域として取り組む必要があるとの回答が65.5%で最も多く、市民の皆さんも地域のつながりの必要性を強く感じております。地域によって取組状況に若干の違いはありますが、自治会や地区社会福祉協議会では住民相互の声かけや挨拶運動を行い、気にかかる人に対してはよい意味でのお節介の気持ちを持ち、回覧板を回すときに手渡しで行うなどの取り組みが行われています。また、民生委員による戸別訪問活動をはじめ、地域のボランティアによる地域ふれあい事業や居場所づくり事業での見守り活動なども実施されております。

次に、2の(2)の御質問についてお答えをいたします。市では今年度から新たな取り組みとして中学校区ごとにボランティアやNPO、自治会、地区社会福祉協議会、民生委員、地区包括支援センターなどの地域関係者による生活支援をつなぐ会を開催していきます。この会では、地域の高齢者が困っている生活上の課題、例えば見守り、ごみ出し、配食などの支援や、地域に不足している

高齢者の通いの場など地域の現状把握を行います。また、参加団体の自主活動について情報交換し、地域のネットワークを強化するとともに、生活支援の充実に向けた話し合いを行い、高齢者が住みなれた地域で安心して暮らせるよう地域での支え合い体制づくりに取り組んでまいります。

以上、御答弁を申し上げます。

なお、再質問につきましては担当部長から答弁させる場合がありますので、よろしくお願いを申し上げます。

○議長（仲田裕子議員） 櫻井久美子さん。

○1番（櫻井久美子さん） 御答弁ありがとうございました。

最初の児童クラブの質問につきましては、人数、広さなど数字で示していただきまして、よくわかりました。指導員の人数については、増やすということに頼るだけでなく、指導員で工夫し、協力し合い、子供たちに寄り添うことができるように努めてまいりたいと思います。

児童クラブのことで再度、質問させていただきます。最近、急激な申込数の増加とおっしゃいましたが、定員を超えているクラブとその対策はありますか。特に私が勤務する金谷小学校区放課後児童クラブの定員超過対策はどうでしょうか。

○議長（仲田裕子議員） 今村こども未来部長。

○こども未来部長（今村重則） 櫻井さんの再度の質問に対してお答えします。

最初に、定員に対する超えているクラブということですが、放課後児童クラブの利用状況につきましては、平成28年度の当初の段階で島田第一小学校、島田第五小学校、六合小学校、金谷小学校など8クラブ31人が待機となっております。現在は、その後の申込者もありまして、36人が待機している状況でございます。その対策としましては、初倉南小学校では今月、夏休みを利用して拡張の工事に着手しており、9月には定員を30人から54人に増員する予定となっております。

また、島田第一小学校では、来年度の拡張工事に向け、今年度、実施設計を行ってまいります。その他の学校につきましても、社会福祉施設等の活用を含めまして調整しているところであります。

それから、金谷小学校の対策につきましては、小学校内の障害児放課後児童クラブにここにこという施設がありましたけれども、そこで使用していた教室を今年度から借用しておりますので、指導員の確保ができ次第、こちらでも放課後児童クラブを拡張していく予定としております。

以上です。

○議長（仲田裕子議員） 染谷市長。

○市長（染谷絹代） 私のほうからも一言。実は学校教育施設は教育委員会の所管でございまして、この放課後児童クラブというのはこども未来部子育て応援課の所管でございまして、学校施設を借りるということで、各学校の校長先生の御承諾といえますか御協力がないとなかなか進んでいかないという事情がございました。しかしながら、昨今の状況、そしてまた急激な待機児童の増加等を踏まえまして、この春、私としましては強い権限をもって、学校教育施設は市の施設でございまして、きちっと管理をすることを条件に空き教室は放課後児童クラブとして使わせていただくということで教育委員会、そしてまた各学校の校長先生方に御協力といえますか、私のほうから強い権限をもって使わせてもらうということを伝え、そのように今急ピッチで整備を重ねているところでございます。

○議長（仲田裕子議員） 櫻井久美子さん。

○1番（櫻井久美子さん） 当クラブの拡張の際にはまたお世話になります。また、日頃より子供たちのために取り組んでいただき、感謝申し上げます。今後とも御支援・御指導をよろしくお願いいたします。

次に、テーマ2について再質問させていただきます。介護や支援が必要になってからも大切です。

が、そうなる前からの地域とのつながりや信頼関係がとても大切だと思いますが、そのような活動を進めてくださることは可能でしょうか、お願いいたします。

○議長（仲田裕子議員） 横田川健康福祉部長。

○健康福祉部長（横田川雅敏） 櫻井さんの再質問にお答えをいたします。御指摘をいただきましたとおり、高齢者が元気なときから地域活動に参加したり、地域社会での役割を担い、地域の人たちとのつながりや信頼関係を築いていくということは、困ったときにお互いを支え合える関係づくりにつながっていくというふうに考えております。また、高齢者が地域活動へ参加することは、生きがいづくりでありますとか介護予防にもつながってまいります。気の合う仲間と趣味の活動でありますとか現役時代に培った能力を生かした活動など、自分に合った活動を長く続けていただくということが大切かというふうに考えております。こうしたことから、市では高齢者が元気なときから身近な公会堂などへ気軽に集まり、趣味の活動などを通して交流をし、お互いを見守り合うことができます居場所の整備について支援を行っています。

具体的に申し上げますと、居場所を運営する地域のボランティア団体等に対しまして、その運営に必要な備品の整備でありますとか、施設のバリアフリー化の工事を対象に20万円を限度に補助を市のほうで行っております。現在把握している範囲で申し上げますと、市内に20カ所の居場所が開設されている状況でございます。そのほか高齢者が身近な公会堂などに集まり、地域のボランティアスタッフなどの協力をいただいて、体操でありますとかゲームなどを楽しむ地域ふれあい事業というものを実施しております、これも現在、市内44団体に事業の運営をお願いしております。市ではこうした地域活動に多くの高齢者が参加していただいて、各地域で継続実施されるよう支

ていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（仲田裕子議員） 櫻井久美子さん。

○1番（櫻井久美子さん） ありがとうございます。

もう一つ、質問させていただきます。地域での声かけや見守り活動などは、行政だけに頼るのではなく、地域の住民が推進していく必要があると思いますが、市として何か対策を考えていらっしゃいますか、お願いいたします。

○議長（仲田裕子議員） 横田川健康福祉部長。

○健康福祉部長（横田川雅敏） 櫻井さんの地域住民主体の取り組みの推進ということについての御質問ですけれども、地域での声かけでありますとか見守り活動などを推進していくために、地域における支え合い体制の構築に向け、今年度、市民向けの生活支援普及啓発講演会というものを開催し、市民のボランティア意識の向上を図っていくというふうに考えております。それとあわせて、生活支援サービスの担い手の養成講座というものを開催し、市民ボランティアの養成に努めていきたいというふうに考えております。

また、住民主体の生活支援サービスを地域で実施するための仕組みづくりを推進するため、今年度、静岡県立大学と連携をし、道悦島地区をモデル地区といたしまして調査研究を行っております。今回の取り組みでは、サービスの提供体制の立ち上げでありますとか運営に係る方法、手順についてのマニュアル作成を予定しております、他の地区での生活支援サービスの普及にも活用していきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（仲田裕子議員） 染谷市長。

○市長（染谷綱代） 今、担当部長から答弁をさせました。今、ボランティアと言いましても、若い方たちはみんな働いております。やはり高齢者同士が、高齢者は支援される人ではなく、互いに支援されたり支えたりという、ともに支え合う、そ

の人材をつくっていかねばならない。元気で長生きしていただいて、弱っている人を支え合う体制をつくっていかねばならないと思っております。そうした中、やはり元気でいられる方は毎日、グラウンドゴルフもできるし、習い事やコースやいろいろなことができる。そうした中、週に1回でも、月に1回でも誰かのお役に立てる、そういう活動ができたなら、もっと人生は豊かになると、私は、御高齢というか、年配の私よりも先輩の方たちのお集まりのときに、よく話をさせていただきます。そうした市民一人一人が、自分が元気で活動できることに感謝して、自分の体が動くうちは、何か一つでも地域のために、あるいは自分と同じ年齢の仲間のために奉仕したい、活動したいと思ってもらえる市民意識の向上、こういったものに力を入れてまいりたいと考えております。

○議長（仲田裕子議員） 櫻井久美子さん。

○1番（櫻井久美子さん） 今回質問させていただき、さまざまな情報や新たな取り組みを教えてください、今後、子供や高齢者を取り巻く環境はよりよくなっていくと安心いたしました。そして改善には、先ほど市長もおっしゃいましたが、市と市民がともに取り組んでいくということが大切だと強く感じました。島田市歌の「喜びあふれる島田市」、「文化がきらめく島田市」、「世界へ伸びゆく島田市」、すばらしい歌詞です。私、大好きです。この夏休みは子供たちと島田市のよいこと、よいところ、いっぱい見つけたいと思います。

本日は、どうもありがとうございました。

以上で質問を終わります。